



高幡地域

～第1期産業振興計画（地域アクションプラン）の総括（案）～

1 各分野の取り組みの総括

農業

- まとまりのある産地づくりが進み、基幹品目のミョウガの販売額は、過去最高の68.2億円を達成。
- 中山間地域では、農協間連携によるユズの産地育成やビレッジ影野農事組合法人の設立等集落営農の取組が進んでいる。
- 四万十栗のブランド化と栗園地の再生を図る取り組みが始まり、地域をあげた取り組みに広がってきている。

林業

- 森の工場が13団地増設され21団地になるとともに、建設事業者とのジョイントによる効率的な運営が進み始めた。
- 製材品の需要が低迷する中、森林認証制度等を活用してほぼ目標どおりの販売高を堅持し、木質エネルギーを活かした循環型の森づくりでは、木質ペレットの販売額が目標を達成。
- 津野山産の原木シイタケでは、販売促進活動等を通じて県内外での取引も始まり、津野山産原木シイタケの評価や知名度の向上に繋がっている。

水産業

- 中土佐町では、スラリーアイスの最適な塩分濃度や温度帯を模索、鮮度保持実験や官能試験による有効性を見出し、カツオ等で効果的な販売に繋げようと取り組んでいる。
- 四万十町で漁業者による企業組合が設立され、水産加工業者と連携した1.5次加工への取り組みが始まっているが、企業組合の経営力や商品の安定供給に課題がある。

商 工 業

- 須崎市で、まち全域がサービスエリア構想により、観光案内等の拠点施設の整備や構想を推進するNPO法人が設立された。
H22年8月に開業した駅前食堂では、月平均974人の来客となっている。
- 「かつおまるごと商品開発プロジェクト」では、販売拠点となるファーストフード店が開店するとともに、地域の食材を活用したこだわりの商品開発が進み、ヒット商品が生まれる等、地域の雇用創出にも繋がっている。

観 光

- 須崎市のドラゴンカヌーや鰹のタタキづくり体験、中土佐町の久礼のまち歩き、津野町、栲原町の森林セラピーロード等の滞在型・体験型観光の取組が進んでいる。
- ゆすはら・維新の道社中は99,099人来場者で賑わい、地域特産品の販売や観光情報の発信拠点となるまちの駅「ゆすはら」も開館。
- 四万十町では、「海洋堂ホビー館四万十」がオープン、1カ月で年間目標の15,000人を突破、24年7月には近隣に「海洋堂かつぱ館」もオープンするなど、交流人口の拡大や周辺地域の経済波及効果に繋がっている。

拠 点 ビ ジ ネ ス 等

- 津野町や四万十町で、直販所等の拠点施設を中心とした農産物・加工品販売のしくみづくりや、豊富な地域資源を活用した商品開発、施設整備の取組を実施。
- 特にH24年4月にオープンした津野町のアンテナショップ「満天の星」・加工所は、7月末までに80,493千円を売り上げるなど、大きく動き出した。
- 四万十町の道の駅「あぐり窪川」でも23年度実績は316,473千円(前年対108.6%)と売上高が増加しているが、高速道の延伸をふまえ、今後農産物の集出荷量の確保や魅力ある商品開発が求められる。

2 主要な指標及び目標に対する実績値

項目	目標	実績
宿泊施設宿泊者数（抜粋）＜注1＞	H23：23,876人	H23：23,295人
シイラの加工品販売額	H23：3千万円	H23：883万円
森林認証材（加工品）の販売量	H23：1,804m ³	H23：1,344m ³
森の工場の木材生産量	H23：11,215m ³	H23：11,837m ³
主要農産物（ミョウガ）の販売額	H23：66.2億円	H23：68.2億円
ビジネス拠点組織の直販所等販売額 ＜注2＞	H23：530百万円	H23：454百万円

注1：雲の上ホテル、マルシェユスハラ、松葉川温泉、天狗荘の合計

2：津野町関連直販所5店舗の直販販売額と「道の駅めぐり窪川」の販売額の合計

3. 地域アクションプランの主な成果と課題①

○ まとまりのある産地づくり

<主要基幹品目の生産拡大や有望品目の導入など>

No.1「園芸品目等の地域基幹品目の振興」
(JA土佐くろしお、JA四万十)

No.2「まとまりのある産地づくりと農家の所得向上」
(JA津野山)

No.3「基幹品目及び推進品目等の維持・発展による
地域農業の活性化」(JA四万十、JA高知はた)



【取組の内容】

- ・収量、品質向上対策
- ・有望品目の導入、定義
- ・集落営農組織の定着等

【主な成果】

- ・ミョウガの販売額：
H19 62.5億円 ⇒ H23 68.2億円
- ・「学び教える場の設置」
H19 6品目 29か所 ⇒ H23 12品目39か所
- ・農協間連携によるユズ産地育成 新植18,000本
(約19ha) (H20~H23)
- ・集落営農組織の育成：
ビレッジ影野農事組合法人設立(H22. 1)
H21 70組織 ⇒ H23 80組織

【課題と今後の方向性】

- ・まとまりのある園芸産地づくりによる主要基幹品目(ミョウガ、ニラ等)の生産拡大
- ・新植ユズの安定出荷のための仕組み作りと基本的技術の定着
- ・地域農業を担う持続した組織への育成

3. 地域アクションプランの主な成果と課題②

○ 森を活かす取組①

< 森の工場の推進 >

No.12「森の工場の推進」

(高幡地域全域の市町村、森の工場の認定を受けた事業者、森林組合、林業者等)



【取組の内容】

- ・森の工場の整備
- ・木材生産の拡大
- ・林業事業者の育成等

【主な成果】	H19	H21	H22	H23
・森の工場	5	17	18	21団地
・木材生産	1,784	2,322	9,658	11,837m ³
・林業事業者の育成	建設事業者の参入 (単独1、JV9)			

【課題と今後の方向性】

- ・事業者の収益性の向上
- ・労働力の確保及び技術力の向上



3. 地域アクションプランの主な成果と課題③

○ 森を活かす取組②

<特用林産物の生産・販売>

No.19「津野山産原木シイタケの生産・販売・
収入の拡大」(JA津野山)



【取組の内容】

- ・営業体制の強化と直販ルートの開拓
- ・シイタケ生産施設の整備(ハード)
※H22、H23産振補助金を活用
- ・生産の担い手対策及び産地化に向けた体制づくり

【主な成果】

- ・販路開拓 県内量販店の直販ルートが確立(県外大手百貨店や高級料理店との取引継続)
- ・JA津野山椎茸部会会員 H21 69名 ⇒ H23 102名
- ・新規生産者 12名

※H23実績

販売量:6.2t ⇨ 計画:6.3t
販売額:23,417千円 ⇨ 計画:29,836千円

【課題と今後の方向性】

- ・生産者のスローガン「1億円産業の復活」を実現するための、戦略の策定や生産・販売体制の増強等

3. 地域アクションプランの主な成果と課題④

○ 地域産物を活用した1.5次産業の振興①

<ショウガ>

No.9「四万十町のこだわり野菜を使った加工品の開発・販売の拡大」(桐島畑)



【取組の内容】

- ・ジンジャーシロップ加工場の整備(H23.2)
※H22産振補助金を活用

【主な成果】

- ・新規顧客を35件獲得(加工品14件、野菜21件)
- ・農業研修生の受け入れ 8名
- ・糸井重里氏とのコラボ:
ほぼ日刊イトイ新聞での受託製造販売

※H23売上実績:14,832千円(3月末)⇔計画:10,000千円

【課題と今後の方向性】

- ・農産物・加工品の安定的な生産供給体制
- ・新商品の開発と販売

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑤

○ 地域産物を活用した1.5次産業の振興②

<シイラ>

No.24「シイラを柱とした水産加工業の創設」
(興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合、四万十町)



【取組の内容】

- ・興津地区水産加工施設整備、稼働(H22.4)
※H21産振補助金を活用
- ・安定的な供給体制の構築
(三枚卸機やヘッドカッター等導入)
※H22産振補助金を活用

※H23加工品販売額実績:8,834千円
(前年対比119.7%)

【主な成果】

- ・「興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合」を設立
(H21.6)
- ・水産加工業者との連携による生産加工体制を構築するとともに、継続的な取引先を開拓した。

【課題と今後の方向性】

- ・企業組合の経営力の強化、安定的な原魚の調達

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑥

○ 地域産物を活用した1.5次産業の振興②

<シイラ>

No.25「シイラ加工食品の生産拡大」
(株) けんかま



【取組の内容】

- ・シイラの商品化と竹輪の製造ラインの整備(H23.1)
※H22産振補助金を活用

【主な成果】

- ・興津漁協四万十マヒマヒ丸企業組合との連携によるシイラ利用の拡大
- ・マヒマヒ竹輪(農林水産大臣賞受賞)
生産数量 502千本(H23)
売上高 13,261千円(H23)

【課題と今後の方向性】

- ・シイラの原材料の確保 11t(H23) ⇔ 計画108t
- ・新商品の開発及び販売

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑦

○ 地域産物を活用した1.5次産業の振興③

<カツオ>

No. 31「『かつお』まるごと商品開発プロジェクト」(企画ど久礼もん企業組合)



【取組の内容】

- ・ファーストフード店のオープン(H22.4)
※H21産振補助金を活用
- ・新製品の開発
(カラヤン、スープカレー、生姜ロール、漁師のラー油等)
- ・地元や都市部での販路開拓

【主な成果】

- ・雇用の創出13人(正3人、パート8人、アルバイト2人)
※H23ファーストフード店の売上実績:
5,022千円(3月末) ⇔ 計画13,250千円
全体の売上実績:
22,566千円(3月末) ⇔ 計画:23,250千円
- ・漁師のラー油は、首都圏でも販路が広がり、ヒット商品となった。

【課題と今後の方向性】

- ・経営方針の確立

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑧

○ 拠点組織等による多角的なビジネス展開

No.29 「津野町地域資源『ふる』活用ビジネス事業」(津野町、ふるさとセンター、津野町開発公社等)



【取組の内容】

- ・直販所を活かした農産物販売システムの構築
- ・道の駅「布施ヶ坂」の改修(H22.8月)
- ・高知市内のアンテナショップ及び加工所オープン(H24.4月)
- ・お茶等の地域資源を使った商品開発(満天の星大福、ロールケーキ、生チョコ、カステラ等)

※ H21～23産振補助金を活用

【主な成果】

- ・各直販施設の手数料の統一や会員登録の一元化が図られた。

※H23実績：直販所売上高137,791千円(H22対比101.3%)
 宿泊者数 9,587人(" 99.7%)

※アンテナショップ「満天の星」売上高

80,493千円

(H24.4/11～7/31アンテナショップ・加工所概算)

【課題と今後の方向性】

- ・運営組織の健全化計画の実施

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑨

○ 中心市街地の賑わいづくり

No.26 「須崎市まち全体がサービスエリア 構想推進事業」

(須崎市、須崎市まち全域がサービスエ
リア構想推進委員会)



【取組の内容】

- ・立ち寄り拠点の整備
街角ギャラリーオープン(H22. 2)
駅前かわらばん まっことまっことオープン(H22. 4)
駅前食堂オープン(H22. 8)

【主な成果】

- ・立ち寄り拠点の整備による交流人口の拡大
※実績(H22年度→H23年度)
街角ギャラリー来場者数
1, 937人→3, 951人
駅前かわらばん まっことまっこと来客数
441人/月→712人/月
駅前食堂 来客数
822人/月→947人/月

【課題と今後の方向性】

- ・街角ギャラリー(旧三浦邸含む)の改修による
核となる拠点の整備とさらなる交流人口の拡大

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑩

○ 滞在型・体験型観光の推進①

<ふるさと博>

No.35「梶原町の体験型・滞在型観光の推進」
(梶原町商工会、梶原町)



【取組の内容】

- ・志国高知龍馬ふるさと博サテライト館オープン (H23.3月)
- ・「ゆすはら・維新の道社中」を核としたPR、誘客、受け入れ活動(神祭ツアーの開催など)

【主な成果】

- ・「龍馬脱藩の郷」のイメージ定着と「ゆすはら」のファンづくりに繋がった。

※ゆすはら・維新の道社中

H23実績: 来場者数 19,949人(ふるさと博会期中)、
脱藩の道ガイド利用者 2,981人

H22実績: 来場者数 99,099人(であい博会期中)、
脱藩の道ガイド利用者 12,315人

※宿泊者数(雲の上ホテル、マルシェユスハラ)

6,005人(H21) ⇔ 8,259人(H23)137.5%

【課題と今後の方向性】

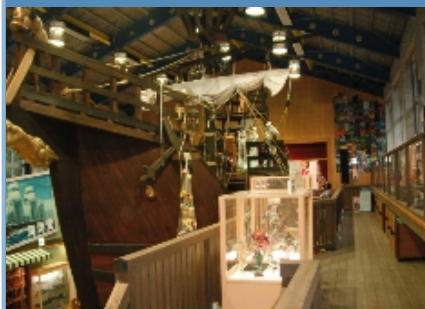
- ・龍馬のまち、環境のまち、癒しのまちのアピールによる誘致活動の強化

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑪

○ 滞在型・体験型観光の推進②

<ホビー館>

No.36「海洋堂ホビー館を活かした観光人口の拡大」(四万十町、(株)海洋堂)



【取組の内容】

- ・「海洋堂ホビー館四万十」の整備、オープン (H23.7月)

※H22産振補助金を活用

- ・併設企画展「ギネスに挑戦 世界のプラモデル展」同時開催(H23年7月9日～9月25日)
- ・ホビー館第2駐車場整備(H24.7月)

〔成果〕

- ・入館者76,720人 ⇔ 計画15,000人 (H23年7月9日～H24年3月末)
- ・入館者114,421人(H24年8月15日)
- ・JRとタイアップして全国初のミュージアム列車「ホビートレイン」の運行開始、予土線の利用向上に繋がった。
- ・四万十町内の道の駅の入込客数や売上増加

【課題と今後の方向性】

海洋堂ホビー館四万十を拠点とした滞在型観光のしくみづくり、受入体制の充実(2次交通や食の提供)

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑫

○その他の取組

No.11「滞在型市民農園の推進等による 農大跡地の活用」

(四万十町、営農支援センター四万十
(株))



【取組の内容】

- ・クラインガルテン四万十整備、オープン(H22.4)
- ・クラインガルテン四万十 運営協議会設立(H22.6)
- ・各種交流イベントの開催

【主な成果】

- ・四万十町に移住の促進に関する窓口が設置され、空家情報等、地域や団体など関係機関で情報共有するしくみが動き始めた。
- ・利用状況 97%(H24.7月現在)
滞在型 15棟 うち15棟入居 100%
日帰型 16区画 うち利用15区画 94%
- ・利用者2世帯が町内に移住(うちH22年度:1世帯)

【課題と今後の方向性】

- ・入居者の移住を促進するしくみづくり
(地域住民と利用者の交流促進、サポート体制の整備等)

3. 地域アクションプランの主な成果と課題⑬

○その他の取組

No.23「スラリーアイスを活用した魚価向上対策」

(中土佐町、中土佐町地域振興公社)



【取組の内容】

- ・スラリーアイス施設整備(H22. 4月)
- ・カツオやアマダイ、メジカなど9魚種を使った鮮度保持実験を実施

※H21、22産振補助金を活用

- ・スラリー製造機(2t)の追加整備(H22. 10月)

【主な成果】

- ・販売実績(H23) 7件(県外1件、県内5件、町内1件)
- ・鮮度保持の有効性が証明され、ブランド化に繋がりはじめた。

【課題と今後の方向性】

- ・本格的取引に向けた具体的販売戦略や運営体制等の検討



4 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用実績等

【活用実績】

平成21年度	4件	66,510千円 (水産業1件、商工業1件、拠点ビジネス等2件)
平成22年度	8件	153,487千円 (農業1件、林業1件、水産業3件、観光1件、拠点ビジネス等2件)
平成23年度	3件	59,552千円 (林業2件、拠点ビジネス等1件) ※24年度への繰越1件を含む
計	15件	279,549千円 (農業1件、林業3件、水産業4件、商工業1件、観光1件、 拠点ビジネス等5件)

【雇用の創出（H21～H23年度）】

	H23年度実績 (H21・22の雇用の継続分を含む)	うち産業振興推進 総合支援事業費補 助金関連
地域アクションプランに伴う雇用の増加	113人	49人

地域アクションプランにおけるふるさと雇用事業の活用人数 41人

